

## 公 募

## 学会誌 42 巻 1 号「森林リモートセンシング 2 (仮)」特集号への原稿募集

日本リモートセンシング学会編集委員会  
委員長 外岡秀行 (茨城大学)

日本リモートセンシング学会学会誌 42 巻 1 号 (2022 年 1 月刊行) において「森林リモートセンシング 2 (仮)」特集号を企画することになりました。学会誌 40 巻 1 号「森林リモートセンシング」特集号では、学会誌 10 巻 3 号以来約 30 年ぶりに「森林リモートセンシング」の特集号を刊行しましたが、それに引き続く第二弾となります。おかげさまで 40 巻 1 号では、衛星を中心とした森林バイオマス計測のレビュー、UAV を用いたマツ枯れ調査の論文、衛星搭載 LiDAR である MOLI 計画の解説、林業におけるリモートセンシングの活用について行政の立場から解説、衛星を用いた風倒被害への迅速な被害把握、AI を用いた樹種分類、UAV を用いた座標測量、バックバック型 LiDAR を用いた溪流調査の事例といった内容で刊行することができました。森林を対象としたリモートセンシングは地球環境、防災から林業まで様々な目的での研究が行われ、実利用化されてきました。森林は、多様な時間スケール、空間スケールの中で存在しており、観測する時間・空間スケールに応じて様々な姿を観ることができます。近年リモートセンシングも、センサーの多様化 (高精細化、多波長化、SAR、レーザー等)、プラットフォームの多様化 (宇宙ステーション、大型～超小型衛星、航空機、UAV、可搬形センサー、モバイル端末、固定センサー)、時間の多様化 (高頻度化、長期データの蓄積)、オープンデータ化、AI 解析等によって、新たな側面から森林の様々な姿を浮き彫りにすることができる様になりました。このように益々多様化するリモートセンシング時代の中、継続的に森林リモートセンシングの情報をアップデートしていく必要があると考え、森林を対象としたリモートセンシングの研究や、リモートセンシングを活用した森林の研究に関する論文・記事を、下記の要領で募集いたします。科学研究、実利用問わず、幅広い観点からのご投稿を心よりお待ちしております。

## 記

- ・掲載予定号 第 42 巻 1 号 (2022 年 1 月 29 日刊行予定)
- ・原稿募集形態 論文、小論文、総説 (レビュー)、技術報告、解説、事例紹介
- ・募集テーマ 森林を対象としたリモートセンシングに関する研究や記事を、科学研究・実利用問わず幅広く募集します。
- ・投稿期限 2021 年 5 月 20 日 (論文、小論文、総説 (レビュー)、技術報告)  
2021 年 11 月 11 日 (解説、事例紹介)
- ・査読審査 論文、小論文、総説 (レビュー)、技術報告に関しては、通常通りの査読審査を行います。解説、事例紹介については査読がありません。
- ・投稿規定 以下のページをご参照ください。  
<http://www.rssj.or.jp/gakkaisi/gakkaisi.htm>  
※投稿原稿の筆頭著者は原則として本学会会員とし、筆頭著者が会員外の場合には、ページチャージを負担していただきます。また、投稿原稿の言語は日本語または英語を使用してください。詳細は本投稿規定をご覧ください。
- ・留意事項 査読審査の進行状況によっては、受理された原稿が 42 巻 1 号以降に掲載される場合があります。
- ・本小特集に関する問い合わせ先 (42 巻 1 号担当編集委員)  
米 康充 (島根大学学術研究院農生命科学系)  
Email : yone@life.shimane-u.ac.jp

以上